

▶ 学習活動の基礎資料 ◀

児童・生徒の社会認識に関する研究

— 男女交際についての考察 —

研究・相談部 金 木 和 子

1. 調査にあたって

標記の研究テーマについては、第1年次と2年次のまとめを発表したが、今年度は第3年次の研究であるので調査内容を拡大、補充して調査をすすめた。

そこで今回は、昨年度と同じく異性ととの交際のあり方、現代っ子の異性観にスポットをあて、2、3の点をあげ参考に供したい。

① 調査対象と調査方法

小学校6年，中学校2年，高校2年を選定した。

それぞれ思春前期，思春中期，思春後期に該当する学年と考え地域性は，都市部と農村部とがほぼ同数になるよう抽出した。調査人員は，676名で質問紙による調査と一部に面接調査を加味し実施した。

2. 男女交際は，どのような状態でしょうか

〔調査1〕 いつごろから異性を意識するようになったらうか。

(調査月日 昭和48年9月以下同じ)

図1

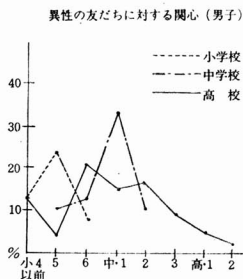
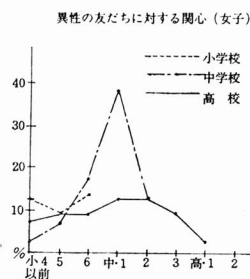


図2



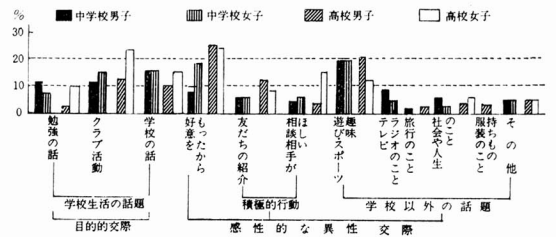
異性に対する関心は，小学校高学年から中学校1年をピークにして関心を増すのがわかる。中2以後は，下り坂の状態，比較的分散している。

これは異性を意識するのが，過去の記憶にさかのぼって求めることが，やや困難の点があり，いつごろかよくわからないという者が，小学校で半数以上，高校女子で

42%の者がはっきりしないという。それで上記の調査は，総括的傾向ととらえてよからう。

ただ昭和47年度の調査(略)と比較すると年々児童，生徒の異性意識が，低年齢化するのがみられるが，このことに対する配慮が，いっそう重要なことになるのだから。

〔調査2〕 異性と交際するきっかけは，おもにどんなことでしょうか。(中・高校生)



中・高生のプロフィールをみると，勉強，スポーツ，趣味，クラブ活動，学校の話が交際の中心になりやすい。学校生活の話題は男子より女子が多いし，目的性交際がみられる。

漸次好意をもったからというものが，中学生より高校生にいくにつれて高率になっていくのがわかり，少しずつ感性的な異性交際が芽生えてきて，思春期の異性愛の芽生えが，このような現象を起こすのもうなずける。現代っ子の異性交友は，割合隠しだてせず開放的にふるまうのは好ましいが，積極的行動(友だちの紹介とか相談相手のほしい交際)が10パーセント前後あるのも見逃すことはできないであろう。

また異性思慕が理想化へ走ったり，一方的な考えにおちいり生活を直視しえない言動がでて(好意のみの交際)実際にゆきずまる男女交際になり，マナーがかけ，実害のでる男女交際は，注目すべきである。

〔調査3〕 異性の友だちをもたないのは，なぜでしょうか。